

# VUEVOを用いた情報保障の新たな可能性

## 1. 従来の音声認識とVUEVOの違い

**UDトーク**



**VUEVO**





話した方向から自動的に話者を切り分けて表示 (8名まで)

## 2. VUEVOのメリット・デメリット

	メリット	デメリット
<b>利用者</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話者の音の方向性がわかりやすい</li> <li>会話を振り返ることができる</li> <li>ビューのデザインを変更できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マイクの位置の工夫が必要</li> <li>話者が移動すると話し手が分からなくなる</li> <li>音の方向性の誤認識</li> <li>一度に表示される量が多く、見づらい</li> </ul>
<b>支援者</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誤字訂正の負担が少ない</li> <li>話者名の入力は最初だけで済む</li> <li>教室にいる場合、話者の把握が楽</li> <li>リモートでも支援ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンラインの場合、話者の把握が困難</li> <li>資料の読み上げをしている場合は、別の支援方法に切り替える必要がある</li> <li>声が重なった場合、修正時に混乱しやすい</li> </ul>
<b>共通</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字情報の反映が早い</li> <li>デザインが見やすい</li> <li>音声認識の精度が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネットワークの状況で動作が固まることがある</li> <li>騒がしい環境は適しない</li> <li>参加者の話し方によっては認識されない</li> </ul>

## 3. VUEVOの効果を最大限に生かすための工夫

**支援者**

- 話者名を登録する
- 授業資料を確認し、誤認識しそうな単語を登録する
- 状況に応じて支援方法を変える
- 認識が遅れているときや、修正が追いつかない場合、メンバーに伝える

**利用者**

- 事前に授業資料を支援者に共有
- VUEVOの仕組みを他の人に説明する
- 話者名を登録する
- 全員が座ったら、名前を1人1人言ってもらい、話者の方向が被らないように調整する
- 認識が遅れているときはメンバーに遅れていることを伝達

**教員**

- 事前に資料を共有
- 認識が追いついているか確認しながら進行する
- 声が被る場合は座る位置の調整を依頼する



音声認識の支援は参加者全員の協力があって成立する！